



少なくない縮小産業

感染症の専門家の話を聞いていると、新型コロナウイルスとの戦いは長期化するという見方が有力なようだ。もう少し我慢すればウイルスの脅威は解消して、以前の生活に戻れるということにはならないようだ。それよりも、油断をして多くの人がまた接触機会が増えれば、また感染者の数が増えるリスクもあるという。もちろん、ワクチンが開発されて行き渡れば話が違ってくるだろうが、ワクチンの早期開発には悲観的な専門家も多い。それだけでなく、仮に新型コロナウイルスのワクチンが開

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

発できても、別種のウイルスが出てくる可能性も少なくないと言われる。

こう考えると、政府が非常事態宣言を取り下げた後も、密閉、密接、密集の「3密」を避けるような生活スタイルは継続することになる。満員の通勤電車をできるだけ避け在宅勤務を増やす、人が密集

が、以前とは全く違ったライフスタイルが当たり前の世界になるのかもしれない。それはそれでよい面もある。満員電車で苦しい思いをするよりは自宅でスマートに仕事をできたほうがよい。人が集まるスタジアムで観戦するのは楽しいが、家でビールを飲みながらの観戦も悪くない。店で仲間と飲み

「ニューノーマル」の社会へ

するライブを避けてネットで音楽を聴く、満員の航空機に乗って海外旅行に頻繁に出かけるのを控える、多くの人が集って共に汗を流すジムに行く人が減る、満席の繁盛店で会食をすることを避ける。

会をやるのも楽しいが、家で家族と時間を過ごすのも楽しいはずだ。

こうした状況をニューノーマル(新常態)と呼ぶ人もいるようだ

いずれにしても、感染のリスクを考えたら、好むと好まざるにかかわらず社会はニューノーマルを受け入れていくことになる。問題はそうした変化によって産業の

姿が変化していくということだ。伸びていく産業には大きなビジネスチャンスとなるが、ビジネスが縮小していく産業も少なくない。縮小していく産業では、そうした変化にどのように対応していくのが課題になる。

集客困難 成り立つか

コロナ後の産業の姿について本格的に議論をするスペースはないが、いくつか気になる産業を例に考えてみたい。一つは観光業だ。

観光業が全てなくなるわけではないが、満員の低価格の飛行機や密閉空間の団体バスで多くの人を集める観光ビジネスは大幅に縮小するだろう。エンターテインメントやスポーツの産業も心配だ。スタジアムや劇場に多くの客を集めるこ

とが前提になっている産業だけに、それが難しくなったときに、産業としてどこまで成り立つのか見えない部分がある。

小売業や飲食の世界でも、店に来る人の数は減少傾向となるだろう。すでに起きているように、ネットでも商品注文する人が増え、食事にしてもデリバリーやテイクアウトを利用する人が増えることは間違いない。そうした取り組みを進めることがビジネスを維持する上で必須となりそうだ。

仮に緊急事態宣言が早期に撤回されても、ウイルスの影響が1年以上も続けば、社会や産業のあり方は大きく変化するはずだ。読者の皆さんも自分の仕事がどのような影響を受けるのか考えて見てもいい。